

# よい体育授業に向けた指導的発言の実践的検討

## — 「NHK：奇跡のレッスン」の質的分析を通して —

山田 魁人（鹿児島大学）

### 1. 目的

よい体育授業を成立させるためには、どのような指導的発言が有効に機能するのかを、優れた指導から抽出・分析した。さらに、その知見を体育授業の場面に照合させ、明示することを目的とした。

### 2. 研究方法

#### 1) 対象

「NHK：奇跡のレッスン」において放映された3名の指導者：ブラジル出身のバレーボール指導者（2016年1月放映）、アメリカ出身の野球指導者（2016年5月放映）、デンマーク出身のハンドボール指導者（2017年1月放映）の指導を対象とした。

#### 2) 指導言の解釈・定義

3名の指導場面が放映された映像の録画記録（DVD）を基に指導者の発した言葉を抽出し、指導者が発した文脈・場面を示したカードを作成した。

また、翻訳は、吹き替え字幕を基に逐語記録を作成し、データの切片化を行った。さらに、番組内で翻訳されなかった感嘆詞等の容易に翻訳できる文脈に関しては、英語のまま逐語化し、解釈・定義段階へと持ち込んだ。

分析結果の妥当性を得るため、著者と鹿児島大学教育学部体育科教育学研究室に所属する大学生8名の計9名による「仲間同士での検証」（メリアム、2004）を経て、指導的発言の解釈・定義を行った。

### 3. 結果と考察

#### 1) 自己紹介及び主題を提示する発言

最初の授業等では、自己紹介のみで完結するのではなく、これからその授業者によって行われる授業の主題を伝えることが有効であると考えられた。

#### 2) 目標を提示する発言

具体的次元では、できていることを伝え、それを受け子どもたちのレベルにあった目標とすべきことが伝えられている。また、抽象的次元として抽出された発言でも子どもたちが達成可能な目標のみが伝

えられている。体育の授業において、目標を伝える際に「これまでに〇〇ができたから、次は〇〇ができるようになる」といった目標の提示方法が有効であると考えられた。

#### 3) 現状を省み目標設定を促す発言

何点取るかという具体的な目標、現状を把握することにより達成可能な目標、子どもたちが考えることにより自覚された目標の提示が有効であると考えられた。

#### 4) 課題を提示する発言

「〇〇をしよう。そのためには〇〇する必要があるよ。」や日常の事象を例に用いた伝達、必要な情報のみを含んだ条項の文脈での発言が有効であると考えられた。

#### 5) 状況を設定する発言

簡潔に必要な情報だけを伝達するには、詳細な説明を行うのではなく、大まかな状況を設定することが有効であると考えられた。

#### 6) 「何」が成功なのか提示する発言

成功の事柄が提示され、「負け」という否定的な言葉を使わないことで、学習内容の肯定的な伝達を行うことができると考えられた。

#### 7) 具体的な方法を提示する発言

未知の技能を伝達する場合には、既知の名詞（動作）を用い説明時間を短縮し、名詞を用いた指導を行うことが有効であると考えられた。

### 4. 結論

本研究において、よい体育授業を成立させるためには、どのような言葉が用いられるべきかを概略的に明らかにすることができた。一例をあげれば、「何」や「どのよう」という単語を用いれば、答えが明確な分析的発問を行える可能性の高いこと。また、疑問形を用いることで肯定的な雰囲気を保つことができることである。

今後、さらに多くの指導場面の観察を行うことにより、有効な指導的発言が抽出されると考えられた。